

分担研究報告書

「小児・AYA世代がん患者のサバイバーシップ向上を志向した妊孕性温存に関する心理支援体制の均てん化に向けた臨床研究」

研究分担者 古井辰郎 岐阜大学医学部産科婦人科 准教授

研究要旨：若年未婚乳がん患者における心理教育プログラムの開発を目的とし、若年成人未婚女性の初期乳がん患者を対象とし、本研究で開発した妊孕性温存の意思決定に特化した心理カウンセリングによるランダム化比較介入により、各種心理指標を用いた効果判定を行う。

A. 研究目的

不確実性の中で不安と恐怖を有するがん患者は、将来の妊孕性や生殖機能温存に関してまで短期間に自己決定しなければならない大変困難な精神状態にある。そこで、カウンセリングの質や担当者の精度を向上させるため、妊孕性温存のニーズが高いが保存したものを使う時期が未定でかつ不安が強い未婚男性と未婚女性の小児・AYA 世代に対する心理教育プログラムを開発し無作為化試験を行う

B. 研究方法

20歳以上、39歳以下の成人未婚女性乳がん患者を対象とした、妊孕性温存の意思決定に特化した心理カウンセリングを開発し、それによる介入を行い、意思決定葛藤、精神的健康、精神的回復力に対して改善効果があるか否かを検討することを目的とする。研究デザインは、介入研究、RCT、プレ-ポストデザインである。

C. 研究結果

現在、患者リクルートおよびデータ収集等の作業中である。

D. 考察

現在、多施設共同での患者リクルートの最中であるが、本研究で開発したプログラムの有効性が検証されたら申請者らが養成した「がん・生殖専門心理士」の効率的な活用による若年がん患者の妊孕性温存に関する医療連携の発展にも貢献するものと思われる。

E. 結論

がん対策推進基本計画における「生殖機能に関する情報提供体制の構築」に有用性が期待できる。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記入

G. 研究発表

1. 論文発表

Rashedi AS, de Roo SF, (中略) Furui T, Almeida-Santos T, Nelen W, Jayasinghe Y, Sugishita Y, Woodruff TK. Survey of Third-Party Parenting Options Associated With Fertility Preservation Available to Patients With Cancer Around the Globe. J

Glob Oncol. 1-7. 2018

Furui T, Takai Y, Kimura F, Kitajima M, Nakatsuka M, Morishige K-I, Higuchi A, Shimizu C, Ozawa M, Ohara A, Tatara R, Nakamura T, Horibe K, Suzuki N: Problems of reproductive function in survivors of childhood and adolescent and young adult - onset cancer revealed in a part of a national survey of Japan. *Reprod Med Biol.* 18.97-104.2018.

Furui T, Takai Y, Kimura F, Kitajima M, Nakatsuka M, Morishige K-I, Higuchi A, Shimizu C, Ozawa M, Ohara A, Tatara R, Nakamura T, Horibe K, Suzuki N: Fertility preservation in adolescent and young adult cancer patients: From a part of a national survey on oncofertility in Japan. *Reprod Med Biol.* 18.108-110. 2018.

志賀友美、古井辰郎、森重健一郎：岐阜県での周産期メンタルヘルスケアの現状と今後の取り組み. *日本精神科病院協会雑誌* 37(2) ; 39-41, 2018

古井辰郎、高井泰、木村文則、北島道夫、中塚幹也、森重健一郎、山本一仁、橋本大哉、松本公一、大園誠一郎、堀部敬三、鈴木直：本邦における AYA 世代がん患者に対する妊孕性に関する支援体制—がん専門医調査の結果より—. *癌と化学療法* 45(5) : 841-846, 2018

寺澤恵子、古井辰郎、山本志緒理、菊野享子、竹中基記、森重健一郎：患者の妊孕性温存における黄体期ランダムスタートの有用性の検討. *日本がん・生殖医療学会誌* 2(1) : 54-58, 2019

## 2. 学会発表

Takenaka M, Furui T, Yamamoto A, Terazawa K, Morishige K-I: The activity of oncofertility in Gifu University Hospital. *Asian Society for Fertility Preservation (New Delhi, India) Sep.22-23, 2018*

Furui T, Takai Y, Kimura F, Kitajima M, Nakatsuka M, Morishige K-I, Suzuki N: Fertility preservation in adolescent and young adult cancer patients: nationwide survey on oncofertility in Japan. *2018 Onco-fertility. Conference(Chicago,USA) Nov.13-15, 2018*

寺澤恵子、古井辰郎、牧野弘、菊野享子、竹中基記、山本晃央、岩田桜子、桑原美紀、棚橋昌代、森重健一郎：がん生殖患者の妊孕性温存におけるランダムスタートで採卵した症例. 第8回日本がん・生殖医療学会学術集会(東京)H30.2.11

菊野享子、竹中基記、寺澤恵子、牧野弘、古井辰郎、森重健一郎：当院での AYA 世代がん患者に対する腹腔鏡下卵巣摘出による卵巣組織凍結の現状. 第8回日本がん・生殖医療学会学術集会(東京)H30.2.11

寺澤恵子、古井辰郎、牧野弘、竹中基記、菊野享子、森重健一郎：若年がん患者の妊孕性温存に関する選択行動. 第70回日本産科婦人科学会学術講演会(仙台)H30.5.10-13

菊野享子、竹中基記、古井辰郎、森重健一郎：生殖医療を契機に発症し、外科的治療を要した卵管卵巣膿瘍の5症例. 第35回日本産婦人科感染症学会学術集会(岐阜)H30.5.27

山本志緒理、寺澤恵子、古井辰郎、菊野享子、竹中基記、森重健一郎：乳がん患

者の妊孕性温存における黄体期開始のランダムスタートで採卵した症例. 第40回中部生殖医学会学術集会(名古屋)H30.6.9

菊野享子、山本志緒理、竹中基記、古井辰郎、森重健一郎：生殖医療を契機に発症し腹腔鏡下に治療し得た卵管卵巣腫瘍の4症例. 第58回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会(松江)H30.8.2-4

寺澤恵子、古井辰郎、竹中基記、山本志緒理、菊野享子、森重健一郎：当院でのがん患者に対するランダムスタート法の経験. 第63回日本生殖医学学術講演会(旭川)H30.9.6-7

#### H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

##### 1. 特許取得

なし

##### 2. 実用新案

なし

##### 3. その他

なし